

- 1 開催日時：令和8年5月14日（木）13：40～15：00
- 2 開催会場：みよし市立緑丘小学校 校長室
- 3 参加者：学校運営協議会委員、学校代表、市担当者等（計10名）

【学校運営協議会委員】

会長 三ツ本 隆様（地域学校協働推進委員） 三宅 敬子様（地域学校協働推進委員）  
副会長 河北 圭一郎様（地域学校協働推進委員） 林 剛様（地域学校協働推進委員）  
松井 志夫様（三好丘緑行政区長） 眞子 伸生様（三好丘桜行政区長）  
伊藤 正彦様（ひばりヶ丘行政区長）  
※欠席 上田 光宣様（現PTA会長） 高橋 小夜子様（前PTA会長）

【学校代表】 校長 黒田 和秀 教頭 前川 直子

【市担当者等】 学校教育課 山内 陽二様

4 日程

- (1) 授業参観：13：40～14：00
- (2) 協議会：14：00～15：00

（委嘱、自己紹介、会長・副会長選任）

- ・教育方針等概要説明（校長）
- ・協議、承認

5 協議内容等の報告

- (1) 教育方針等概要説明（別紙「令和8年度第1回学校運営協議会報告・協議資料」参照）

令和7年度に成果の見られた活動を継続しつつ、①～⑥に示した活動について改善や新たな取組を行っている。

① 子どもの笑顔のために【授業】 「みどりのいっぽ」

- ・学び合いの授業を軸に、特別の教科 道徳、各教科の授業づくりに力を入れる
- ・級友の「分からない」「困っている」を生かした授業づくり
- ・学校生活や学習活動で、「分からない」「困っている」を伝える力を育む
- ・ペア、グループで対話をしながら学び、認めてもらえるうれしさと受け止める優しさを価値付ける取組
- ・一人一人の子どもを多くの眼で見守り、支える教科担任制の継続
- ・デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力を高めるためのデジタル・シチズンシップ教育

② 子どもの力を生かした教育活動

- ・範を示して、行動で見せる、学んだことを下級生に伝える上級生の「自己有用感」、下級生の「目標づくり」につながる異学年交流の取組
- ・挨拶や履物をそろえるなどの整理整頓の意識を高め定着
- ・一年間を見通した委員会活動、子どもが主催する集会を計画、卒業生とのつながりを計画

③ 家庭・地域との連携による教育活動（コミュニティスクール）

- ・五感で学ぶ豊かな体験 3年「柿畑見学」 4年「SDGs」 5年「田植え」 6年「防災」
- ・地域の方を講師とした正課クラブ活動（9クラブ、年9回）
- ・地域での挨拶が課題であるが、まずは学校に来ていただいた地域の方に挨拶する経験を積み、自信につなげる
- ・中庭の畑を地域の方に担当していただき、関わる機会を設定
- ・みどりっこサポーター、東海学園大学、三好高校による授業サポート

- ④ 家庭・地域の笑顔のために
  - ・授業支援などのボランティアを全家庭に配信（きずなメール、ホームページ等）
  - ・草刈りの会、中庭畑活動を行政区回覧にて呼びかけ
  - ・PTAによる学用品リサイクル品の回収・無料提供への移行、親子でアルミ缶回収等資源回収
- ⑤ 職員の笑顔のために
  - ・家庭と連携したICT機器の有効活用
  - ・家庭、学校が学びの森専門相談員とつながり、教師もよりよい指導方法を学ぶ
  - ・業務の見直しと働き方改革に取り組む

(2) 協議内容

- ① 交流事業（ICT活用と友好都市連携）
  - ・地域との連携もよいが、木曾町などの友好都市との交流の活性化も視野に入れることができる
  - ・授業での交流、例えば、学校紹介・教育活動共有等を行うと刺激になる
  - ・年1回でも交流機会を設けると効果的
  - ・相互の教育活動の発表・共有の場を設ける
- ② 教員業務の効率化
  - ・教員の業務負担軽減と効率化の必要性について議論
  - ・外部の専門家（経営・効率化分野）の知見を活用できる
  - ・無駄な業務の見直しが必要、教員の業務範囲の整理（専門業務と非専門業務の切り分け）  
例）ワックスがけ・環境整備は外部委託も検討余地あり  
見回り・パトロールは専門人材の活用が望ましい
- ③ 学校業務の役割分担
  - ・教員が担うべき業務（例：採点・評価）は専門職として必須、それ以外は地域・外部・業者へ委ねるべき
  - ・市や教育委員会主導で業務分類を進める必要あり
- ④ 学校と地域の連携
  - ・地域との協力体制を強化すべき
  - ・保護者・地域による見守り・支援の拡充
  - ・教員と地域が直接話す機会の不足
  - ・年1回以上の交流・意見交換会の実施
  - ・LINE等を活用した気軽な相談体制の構築
  - ・教員と地域の「ラフな関係性」の構築
- ⑤ 保護者・社会への情報発信
  - ・教員の負担の大きさが十分に伝わっていない
  - ・一部保護者の過度な要求が負担増につながっている
  - ・学校・行政が連携し、現状を発信
  - ・適切な役割分担の理解を促進
- ⑥ 不登校・児童の多様性
  - ・不登校児童の割合増加に驚きの声
  - ・地域差が大きい
  - ・支援体制はあるが十分とは言えない

【教員の勤務実態】  
 勤務時間：8:20～16:50（実質休憩なし）  
 勤務時間内で業務完了は困難  
 長時間労働が常態化  
 業務量過多  
 残業の扱いの不透明さ  
 制度（例：給与・手当）の不十分さ